

広州

モデルコース

日	都市名	旅程概要	食事/宿泊		
			朝	昼	夕
1	関西 広州	大阪より空路、広州へ 着後、ホテルへ	×	×	○
			宿泊地 広州		
			○	○	○
2	広州	ホテルにて朝食後、 広州市内観光へ (西漢南越王墓博物館、中山紀念堂、六榕寺、 陳氏書院、沙面 など)	○	○	○
			宿泊地 広州		
			○	×	×
3	広州 関西	ホテルにて朝食後、 ホテルより空港へ 広州より空路、大阪へ 着後、解散	○	×	×
			宿泊地 広州		
			○	×	×

関西空港⇄広州(白雲空港)
就航航空会社

・中国南方航空(CZ)
毎日運航・1日1便

2010年12月現在

みどころ

・西漢南越王墓博物館

秦の始皇帝が紀元前214年に嶺南(現広東省・広西チワン族自治区一帯)占領して統治した。秦の崩壊後、秦の将軍であった趙佗が自ら王を名乗りここに「南越国」を建国し、現在の広州を都とした。1983年の秋に、越秀公園西側の象崗から偶然に発見された前漢期の地方政権南越国第2代王の趙昧の陵墓から出土した副葬品が約1000点展示されている。



・中山紀念堂

1931年、辛亥革命の指導者孫文を記念して広州市民と海外華僑の献金によって建てられたもの。1921年に孫文が大統領に就任した官邸跡地(現在の越秀公園の南)にある。紺色の瑠璃瓦が美しい八角形のホールの高さは58メートル。5000人を収容できる内部には、柱は一本も使用されていない。中国人技士によって造られた独特の構造で、音響効果も大変良い。紀念堂の正面入口、緑の芝生の広場には高さ5mの孫文の銅像も立っている。



・六榕寺

南朝479年に創建された古刹で、元々は「浄慧寺」と呼ばれていたが、宋代の詩人蘇東坡がここを訪れた際に境内にあった6本の榕樹(ガジュマルの木)の美しさを讃えて「六榕」と書き残して以来、六榕寺と呼ばれるようになった。境内中央に立つ広州で最も古い仏塔「花塔」は、高さ57.6メートルの八角形をした塔で、九層ある。塔の上からは、寺周辺の街並みが一望できる。



・陳氏書院

清朝末期に、「陳」姓の氏族が祖先を祭るために創建したもの。前院、後院、西院と中庭を挟んで立ち並ぶ建物は、天井が高く、風通しがよい伝統的な広東式建築で、それぞれが廊下で結ばれている。見所は建築物の屋根や欄干などいたるところに施された中国古典や故事にちなんだ動物、人物などの精巧な彫刻である。現在は「広東民間工芸館」として陶磁器、書画、硯、象牙や翡翠の彫刻などが展示されている。

